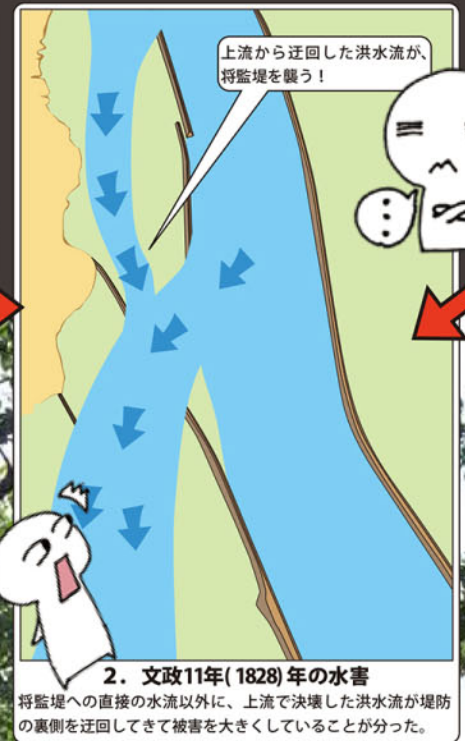




しっぺていますか？

もようげん堤



嘉永5年(1852左)/安政2年(1855右)の絵図
いずれも上流で決壊し、堤防の裏側を流れてきた洪水流が「もようげん堤」が跳ね返している。



市内に数ある桜の名所のひとつに、若草地区鏡中条の「憩の桜通り」があります。今は削平されて道路となっているため知らない方も多いと思いますが、かつてこの道は、地域を水害から守る重要な堤防だったのです。

堤防の名前は「もようげん堤」。造られている場所の小さな名をとって「八幡下堤」とも呼ばれました。「もようげん堤」は、日本史上最強ともいわれた文政十一年(一八二八)の台風によって、壊滅的な被害を受けたことを踏まえ、翌十二年に地域の治水の要であった「将監堤」を守ることを目的に新たに造られた堤防です。周辺の治水システムを一新して模様替えした際に造られた堤防であることから「模様替堤」と記され、地域ではそれがなまって「もようげん堤」と呼ばれるようになったといわれています。

「もようげん堤」は、度重なる水害を経験してきた人々が、その経験を元に新たな発想で構築した堤防です。地域に残る資料からはその後、この堤防が想定どおりに機能して、水害の危機から度々地域の人々を守ってきたことを知ることができます。

しかしその後、山梨県全域に大きな被害を及ぼしたことで知られる明治四十年(一九〇七)の水害の際は、さすがにこの「治水システム」でも耐えられず「将監堤」の決壊を招いた後、堤防をなるべく途切れさせず、連続させる新たな計画に沿って「もようげん堤」もその役目を終えました。しかし今も残るその痕跡は、南アルプス市の人々と水との闘いの歴史を私たちに教えてくれています。

写真/文 文化財課